



食品機能性研究センターニュース

トピックス

◆国会議員有志が健康食品問題研究会を設立

○石崎岳議員(北海道3区)を会長とする、国会議員有志による「健康食品問題研究会」の設立総会が12月4日に東京・衆議院第一議員会館において開催された。その目的は、「健康食品のあり方を研究し、国民の健康維持増進のために、安全性と信頼性を担保する方策を探ること、及び健康産業を成長産業として位置づけ、その振興を図ること」である。会の構成員として、自民党、公明党、民主党の衆参両議員33人が名を連ね、党派を超え国民の負託に応える役割を担うため、当面は定期的に勉強会を行う予定としている。総会では、(独)国立健康・栄養研究所の渡邊理事長が「健康食品」の有用性表示についてと題し講演を行った。

○2006年6月に医療制度改革法が成立したが、それ以降高齢者の医療費窓口負担が次々に増える予定である。毎年1兆円ずつ増加する医療費負担に、国家財政が将来的に耐えられなくなるとの試算があるからだ。世界一の平均寿命と健康寿命を長年維持し続けている我が日本は、平成19年に世界に先駆けて超高齢社会(super-aged society)に突入したといわれている。この難局を好機ととらえ、世界の手本となる健康な超高齢社会を実現するために、この健康食品問題研究会が機能し、「食と健康の科学」が日本の重点的研究課題に選定され、多くの予算が投じられるよう論議が進むことを期待したい。(T. T)

ミニ解説コーナー

◆ミカンカロテノイドの骨粗鬆症予防効果(Mikkabi Study)

ヒト試験チームに参画する果樹研グループは、三ヶ日町研究という名前で、国内有数のミカン産地住民を対象とした栄養疫学研究(三ヶ日町研究コホートII)を実施し、ミカンの摂取が糖尿病・肝疾患・動脈硬化・骨粗鬆症等の生活習慣病に及ぼす影響を縦断的に検討することで、ミカンの有用性をヒトレベルで明らかにすることを目的に研究に取り組んできた。今回、その研究成果が次第にまとめられ、以下がその内容だ。

<試験の概要>

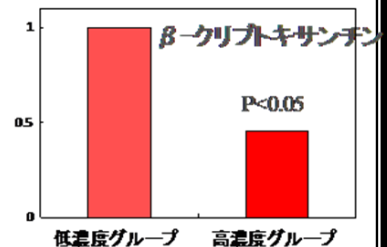
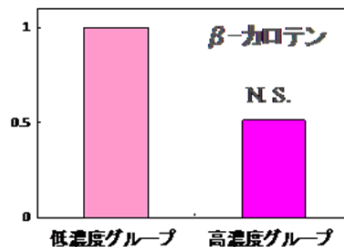
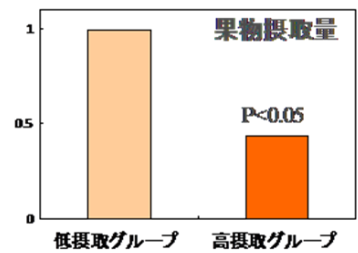
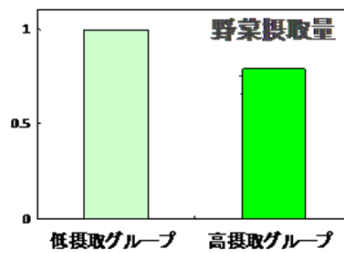
三ヶ日町研究の協力者1,073名(男性357名、女性716名)のベースラインデータを用いて、血清カロテノイドとメタボリックシンドロームとの関連について横断的な解析を行った。特に、主成分分析による食行動のパターン化と閉経女性における橈骨1/3遠位(非利き腕)における骨密度との関連を解析した(Sugiura et al., Osteoporos. Int. 2007)。

<結果の概要>

1. メタボリックシンドロームのリスク(オッズ比)は血清β-カロテンレベルが高いと有意に低い
2. 骨密度低値のリスクは血清β-クリプトキサンチンレベルが高いグループと果物摂取量が多いグループで有意に低く、ビタミン・ミネラル類等の骨密度に影響すると考えられる要因を統計的に補正しても変わらない

ここから、果物の摂取量はミカンの摂取量を反映しており、またβ-クリプトキサンチンはミカンに特徴的に多いカロテノイドですので、ミカンが閉経に伴う骨密度の低下に有効である可能性が示唆された。

安信プロジェクト:ヒト試験・メタボリックシンドローム研究チーム長 山本(前田)万里(野菜試)



骨密度低値: 下位25%を境界値(0.501g/cm²)

果物・野菜摂取量、血清カロテノイドレベル別に見た骨密度低値出現の多変量調整オッズ比(低いほど骨密度低下に有効と判断)